

令和三年度
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一** から **四** まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 学校裁量問題は、**三** です。
- 3 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 4 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
- 5 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

— 次の問いに答えなさい。

問一 次のA～Dの——線部を漢字に直したとき、「緑茶」と熟語の構成が同じになるものを一つ選び、その漢字を書きなさい。

- A じどうや生徒の健康を観察する。
- B ようもうちからフェルトを作る。
- C 湿気が多くてふかいに感じる。
- D 兄と腕ずもうでしようぶをする。

問二 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。

(1) 環境や景観に配慮した市役所の新しい庁社の建設計画が進められている。

(2) 学校図書館で定期購読している雑誌を、係の生徒が本棚に順助よく並べる。

問三 K中学校の生徒会長の岩崎^{いわさき}さんは、校区に暮らしている高齢者のためのボランティア活動に取り組むことを、生徒会役員会議で提案^{ていあん}しました。次は、配付した資料(A)、生徒会役員の話し合いの場面の一部(B)です。これらを読んで、(1)、(2)に答えなさい。

(A) 配付した資料

今年度の新たな取組（ボランティア活動）について

- 1 校区内にあるX町内会の一人暮らしの高齢者の様子～X町内会長の原田さん(61)の話～
 - ・足腰が弱り、以前のように家事がはかどらず、もどかしい思いをしている人がある。
 - ・一人きりで過ごす時間が長く、寂^{さび}しい思いをしている人がある。
- 2 校区内で一人暮らしをしている75歳以上の高齢者の世帯数
 - ・13世帯
- 3 ボランティア活動の候補案
 - I 夏季の草刈り、冬季の雪かき
 - II 季節の花とメッセージの手渡しプレゼント
- 4 他校のボランティア活動経験者の感想
 - ・相手の方の気持ちに寄り添って、自分から考えて行動できたので自信がついた。
 - ・相手の方に喜んでもらおうと取り組んだら、自分の方が元気をもらった。
 - ・相手の方に笑顔になってもらえて、自分の心も温かくなった。

(B) 生徒会役員の話し合いの場面の一部

(岩崎さん) 今年度の生徒会の新たな取組として、ボランティア活動を行うことを提案します。

私は、先日家庭科の「高齢者と家族・地域社会」の学習で、X町内会長の原田さんにインタビューをしました。資料の①、②を見てください。原田さんは、X町内会にいる一人暮らしの高齢者のことが気がかりだという話をしてくれました。現在、K中学校の校区には、一人暮らしの七十五歳以上の高齢者世帯は、十三世帯あります。私は原田さんの話を聞いて、私達の身近にはX町内会の一人暮らしの高齢者のように、困っている高齢者がいるのではないかと考えました。

皆さんは、この状況をどのように思いますか。私は、生徒会として、校区に住んでいる高齢者の方々のために、高齢者の気持ちに寄り添ったボランティア活動に取り組みたいと考えています。そこで、資料の③にあるようなボランティア活動の候補案を考えたので、意見を出してください。

〈岩崎さんの提案に対する意見交流〉

(岩崎さん) 皆さん、私の提案に対して前向きに話し合ってください、ありがとうございます。

(1) (B) の [] で囲んだ部分で、あなたが岩崎さんの考えたボランティア活動の候補案のうち、いずれかのよさについて意見を述べるとしたら、どのような意見を述べますか。次の条件1、2にしたがって、解答欄に示した表現につなげて書きなさい。

条件1 (A) の③「ボランティア活動の候補案」のうち、あなたが選んだ案の記号を、解答欄の [] に書くこと。

条件2 (A) の①「校区内にあるX町内会の一人暮らしの高齢者の様子」のいずれかに触れながら、その高齢者が望んでいることを考えて、書くこと。

(2) 岩崎さんは、話し合いの最後にボランティア活動の意義について述べて、話し合いを終えました。次は、岩崎さんの話した内容の概要です。 [] に当てはまる表現を、二十文字程度で書きなさい。

(A) の④「他校のボランティア活動経験者の感想」に共通して言えることをもとに、ボランティア活動は [] ことを訴えて、活動に積極的に取り組もうと呼びかけた。

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(川上健一「雨鱒の川」による)

問一 — 線1 「『いた!』心平は水面から顔をあげていった」とありますが、心平が雨鱒を見つめるまでの様子を、次のようにまとめるとき、に当てはまる言葉を文中から十七字で書き抜きなさい。

遠くまでは見えにくい暗い川の中で、よく眼をこらし、を探りながら、対岸の森の方へ移動し、ウグイやヤマメには目もくれず、雨鱒を探していた。

問二 — 線2 「心臓が大きく鼓動しているのがわかった」とありますが、この時までの心平と雨鱒に関する描写を、次のように整理するとき、に当てはまる表現を、文中の言葉を用いて二十字以上、二十五字以内で書きなさい。

心平に関する描写	雨鱒に関する描写
心平は身をかがめて近づいた。 心平はもう一歩前進し、川床の砂が少し舞い上がった。 心平はヤスの届く距離から、意を決してさらに近づいた。	雨鱒はじつと心平をみており、逃げるそぶりをみせなかった。 <input type="text"/> 。 雨鱒は心平の手が届く距離まで近づいても逃げなかった。

問三 — 線3 「希望と自信が、少年の胸にふくらんでいった」とありますが、これは、心平が、どのような雨鱒捕りの経験をしたことにより、どのように思えたということですか。解答欄に示した表現に続けて、七十字程度で書きなさい。

問四 次は、この文章における表現上の工夫の一つをまとめたものです。に当てはまる言葉を、文中から五字で書き抜きなさい。

心平の緊張が最も高まっているときと解けたときの落差を、の感じ方の変化によって表現している。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

Blank area for writing the answer.

(辻惟雄「伊藤若冲」による)

問一 〓線1を漢字で書きなさい。また、〓線2、3の読みを書きなさい。

問二 次は、ある生徒がこの文章から読み取った、型のよさをまとめたものです。①、

②に当てはまる表現を、それぞれ五字以上、十字以内で書きなさい。ただし、

①は文中の語を使って書くこと。また、②は「ジャンル」という語を使い、文中の浮世絵の例から考えて書くこと。

・先生が、どの弟子たちにも同じように教えようとする場合、誰にでも同じような手本を示して、知識や技能等を①ことができる。
・ある美術作品を初めて見た人でも、特定の美術作品群との何らかの共通点を見出して、その作品の②ことができる。

問三 〓線1「型をベースに個性を花開かせる」とありますが、江戸時代には一般的であったこうした表現のあり方について、いけなを例に次のようにまとめるとき、①に当てはまる最も適当な表現を、文中から十字以上、十五字以内で書き抜きなさい。

いけばなでは、最初に花材の選び方や花の配置などの②を身に付けるが、生けた人によって、作品に豪快さや繊細さなどが表れる。

問四 〓線2「誰も…：斬新な表現」とありますが、江戸時代中期において、こうした斬新な表現はどのような役割を果たしたと筆者は述べていますか。「個人という意識」がどのような関係したのか分かるようにして、百五字程度で説明しなさい。

問五 この文章の段落と段落の関係について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア ④の段落では、①から③の段落までの内容を受けて問題提起している。

イ ⑥の段落では、④と⑤の段落で説明された内容と対立する内容を述べている。

ウ ⑧の段落では、⑦の段落の要点を、具体例を用いて説明している。

エ ⑩の段落では、⑨の段落の内容を否定した上で、主張を展開している。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

博雅^{はくがのさん}三位、月の明かりける夜、直衣^{なほし}にて、朱雀門^{すざくもん}の前に遊^{あそ}びて、よもすがら、笛^{ふえ}を吹^ふかれけるに、同じさまに、直衣着たる男の、笛^{ふえ}吹^ふきければ、「たれならむ」と思ふほどに、その笛の音、この世にたぐひなくめでたく聞^きえければ、あやしくて、近寄^{きこ}りて見^みければ、いまだ見ぬ人なりけり。われもものをもいはず、かれもいふことなし。かくのごとく、月の夜ごとに、行きあひて、吹くこと、夜ごろになりぬ。

かの人の笛の音、ことにめでたかりければ、こころみに、かれを取りかへて吹きければ、世になきほどの笛なり。そののち、なほなほ月ごろになれば、行きあひて吹きけれど、「もとの笛を返し取らむ」ともいはざりければ、ながくかへてやみにけり。三位失^うせてのち、帝^{みかど}、この笛を召^よして、時の笛吹^{ふえふき}どもに吹かせらるれど、その音を吹きあらはす人なかりけり。

〔十訓抄〕による

(注) 博雅三位——平安中期の貴族で音楽の名人。 直衣——貴族の普段着。
 よもすがら——一晩中。 たぐひなくめでたく——例がないほど素晴らしく。
 なほなほ——引き続き。 ながくかへて——長い間、取り替えたままで。
 失せて——亡くなって。

問一 線ア～オのうち、博雅三位の動作を表しているものを、全て選びなさい。

問二 文中の ① ② で囲んだ部分の博雅三位と男の様子を、次のようにまとめるとき、
 ①、② に当てはまるものの組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

月が出ている夜に、朱雀門の前で二人は ① 笛を吹き合った。その後、二人で
 笛を吹き合うことが ② 。

- ア ① 待ち合わせて ② 数夜にもなった
 イ ① 待ち合わせて ② 一夜もなかった
 ウ ① 偶然出合い ② 数夜にもなかった
 エ ① 偶然出合い ② 一夜もなかった
- 問三 次のア～エを、この文章で起きた順に並べかえなさい。
- ア 博雅三位には、男の笛の音が他に比べるものがないほど素晴らしく聞こえた。
 イ 博雅三位と同一ような素晴らしい音を出すことができる笛吹はいなかった。
 ウ 博雅三位が、試しに男の笛を吹いてみたところ、素晴らしい笛だとわかった。
 エ 博雅三位は、男から笛を返すように言われなかったので、その笛を長い間持っていた。

